

自由民主党 Academy of Politic Kanagawa-LDP

かながわ政大新聞

発行・編集

自由民主党かながわ政治大学校

運営委員会(第13期)

担当事務局: 木村大輝

問い合わせ: 045-641-8723

kimura@k-ldp.jp

2011.12.17 / 3号

特集「震災・エネルギー政策」受講生視察を終えて

「震災・エネルギー政策」をテーマに据え、十月十四日に神奈川県議会・防災対策本部、十一月五日に横浜市民防災センター・三菱みなとみらい技術館をそれぞれ訪れた。運営委員会では「政治大学校ならではのイベント」とは何かを議論し、事務局と共に受講生が企画・実施に関わる初の催しとなった。

「震災・エネルギー政策」イベント

見学 神奈川県議会・防災対策本部見学(十月十四日)

講座 一般社会人講座 甘利明衆議院議員(十月十五日)

講座 専門政治講座 杉原英和温泉地学研究所次長(十月二十九日)

見学 横浜市民防災センター・三菱みなとみらい技術館見学(十一月五日)

討論 受講生討論会(十二月一七日)

参加者の声

(アンケートより 一部抜粋)

- ・ 議会は一度はみておくべき。
- ・ 議員になるには改めて幅広い知識が必要である事を感じた。
- ・ 県や横浜市の施設の見学から地元を考えるきっかけとなった。
- ・ もう一步踏み込んでよかった。
- ・ 地震体験など印象に残った。このテーマは改めて考えるべき。
- ・ 政治大学校だからこそ体験できるイベントであったと思う。
- ・ 時間に追われたのが気になった。
- ・ 密度と共に時間の余裕も必要。

運営委員の反省

- ・ 初めて受講生が企画・運営まで参加し、よい経験となった。
- ・ 現地の下見など、行動や時間を意識して準備や計画立てが必要であった。
- ・ 広く浅くはよかったが、掘り下げて中身を濃くすることもよかったかも。
- ・ 長い行程で参加者へのフォローが足りていなかったのかもしれない。
- ・ 普段会話する機会が少なかった方とも会話を拡げることができた。
- ・ 体を動かすことで、印象に残りやすいと改めて感じた。

十月十四日

「神奈川県議会・防災対策本部」視察見学

半日のスケジュールが短いと感じる程、県議会と県庁見学、要人表敬訪問と密度の濃いプログラムが展開された。県議会での議事内容の解説や、各党派の討論の様子、採決という議会制民主主義の瞬間を目撃し、政治を志す者として一度は観ておかなければならぬ、という気持ちを新たにしたい。また、県庁担当者により防災対策や新エネルギー政策について講話を受け多くの事を吸収することができた。ただし、質疑応答など不完全に終わったところもあったため、今後の検討課題も見えた。参加者から、さすが自民党、という声も聞く事ができた点は当日の中身の濃さを表していると考ええる。

■ 議会見学に先駆け、加藤洋治事務局長より議事やしくみの解説を聴く



■ 防災対策本部にて県庁担当者より講話を聴く



■ 竹内英明県連幹事長を囲んで



■ 要人表敬訪問
黒岩裕治知事(右)、持田文男議長(左)

十一月五日

「横浜市民防災センター！・三菱みなとみらい技術館見学」

一日をかけて、横浜市民防災センターと三菱みなとみらい技術館にて、防災と科学技術に触れた。このような機会がなければ行く事はなかった、童心に帰って楽しみながら触れることができたという声が聞かれるよう、普段の講義とはまた違ったイベントとなった。

横浜市民防災センターでは、地震と暗闇を体験し講話をいただいた。講話の中で強調されたことは、「①その場にあつた身の安全の確保、②すばやく火の始末、③となり近所の助け合い」ということ。参加者からは、帰宅して改めて確認をするなど意識が変わったとの声



■暗闇体験中

壁伝いでも、なかなかドアにたどりつけません。勇猛に障害物を乗り越えた消防団員もいました。



■講演

岡崎防災センター所長（左）、
斉藤たつや横浜市会議員（右）



■斉藤たつや横浜市会議員を囲んで

へ声も聞かれる。斉藤たつや横浜市会議員より、横浜市をはじめとする自治体での取組みについて講話をいただき、地域に戻って確認することの重要性を認識した。

三菱みなとみらい技術館では原子力、ガスタービン発電、風力発電、太陽光発電のしくみと解説を聞き、代替エネルギーとして十分か、どれくらいの規模が必要なのかを知る事ができた。発電に必要な技術やバランスを知ることができたことは大きい。

長丁場ではあったが、意見交換会やその後の親睦会を含め、有意義な見学会として時間を共有できた。今期初めて事務局だけではなく受講生が主体となつてイベントを企画・実施し、震災・エネルギー政策以外にも多くの事を学ぶきっかけとなった。



■ガスタービン発電の組み合わせを学ぶ
効率と予算のバランスも重要



■意見交換会の様子

1時間を超えて活発な意見が交換された。

受講生の活動

三月十七日と十八日に、かながわ政治大学の恒例行事である特別セミナーが開かれます。それぞれのグループリーダーに抱負を伺いました。

○研究発表A班リーダー

吉田 稔（川崎市）

A班のテーマは「尖閣諸島」です。

日本の固有の領土でありながら、中国や台湾から自国の領土だと主張されている現在、いかにしてこの尖閣を守るか、日本が打ち出す最善の解決策を見出すために毎回、班員同士で熱く議論をしている最中です。

○研究発表B班リーダー

長谷川 琢磨（横浜市）

高いようで低いのが領土問題への関心。低いようで高いのが教育の重要性。我々B班は教育を切り口に領土問題を考え、勉強に励んでおります。短期集中型の勉強スタイルで負担も多く大変ではありますが、皆で一致団結して頑張ります。

編集後記

今期は政大初の取組みが多くありました。この「かながわ政大新聞」をはじめ、視察見学会イベントも事務局だけでなく、受講生が企画・実施に関わりました。いろいろと欲張ったこともあり、すべてが満点であったとは考えていません。しかし足りなかったことは、次の糧に活かしていきたいはず。取組と過ちを繰り返す事で、政治大学校自体が、地に足を着いた組織として三種の変容を果たしていくのではないかと考えます。運営委員会とかながわ政大新聞がその過程の一つにあれば尚幸い。これからも皆さんで政治大学校を支えていきましょう。（洞田慎一）